

平成21年度 国立大学法人名古屋大学 年度計画

大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

名古屋大学は、「課題探究力と課題解決力に秀でた勇気ある知識人として、新時代の要請に応える人材の育成を目指す」ことを教育の中期目標としている。すなわち、1) 将来の社会を支える知的人材の育成、2) 各々の学問領域のもつ広さと深さを専門性に基づいて教え、

- ・ K13 全国レベルで活躍できる人材を育成するため、課外活動プログラムに特別の支援を行う。

特色ある課外活動をしている学生への顕彰および体育会会長表彰を継続して行い、学内外に公表する。

学生福利厚生・課外活動等充実費により、課外活動を行う上での施設・設備面の改善・充実を図る。

<教育プログラムの国際化>

- K14 学部及び大学院での英語による教育プログラムの開講数と受講者数を増加させる。

- K15 留学生に対する日本語教育プログラムを強化する。

- K16 海外の大学との単位互換プログラムの充実を図る。

日本語教育オンライン教材の利用状況を調査する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

<優れた教育者の確保>

- K17 優れた教育業績を持つ研究者の採用を増やす。

- K18 教養教育院の教員体制を充実する。

- K19 教育の専門能力を向上させる新任教員研修を奨励する。

英語新カリキュラム実施のため、教養教育院に「Academic English支援室」を設置し、新たに専任スタッフを配置する。

新任教員の教育能力と教育意識を高めるための研修を実施する。

<教育の質の評価と改善>

- K20 世界最高水準にある協定大学と相互に教育方法等に関する情報を交換し、教育改善を図る。

- K21 教授法と技術の向上に必要なFD活動の内容を充実する。

全学教育に係る教員FDを継続実施する。

国私立大学の連携による「FD・SDコンソーシアム名古屋」を推進する。

- ・ K22 在学生及び卒業生に教育満足度調査を定期的実施し、教授・学習の質の見直しと改善に役立てる。

卒業生・修了生の教育成果調査を本人および上長を対象に行う。

- ・ K23 学生の理解度等が容易に把握できるようにするために学生の成績データ情報を充実させる。

成績分布表を作成し、各学部において学生の理解状況を点検する。

- ・ K24 評価企画室を通して、教員プロフィール情報を整備する。

平成21年度は年度計画なし。

<教育支援機能の充実>

- ・ K25 教育学習に必要な資料・情報の収集・提供に努めるとともに、電子図書館的機能及びネットワークを高度化し、情報アクセス環境の整備を図り、教育学習支援機能を充実する。

附属図書館内の「ラーニング・コモンズ」を完成させる。

<e-Learning環境整備>

- ・ K26 在学生の自主的学習を促進する e-Learning の教授・学習システムを創設するとともに、e-Learning に関する研修制度を確立する。

e-Learningを活用した英語新カリキュラムを開始する。

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

<学生の学習と生活に対する支援>

- K27 多様な学生のニーズを尊重した学習・進学・就職支援のサービスを充実させる。

- K28 学生に対する心身両面のケアを行う体制を強化する。

- K29 優れた課外活動の実践を支援する環境整備を行う。

学生福利厚生・課外活動等充実費により、課外活動のための施設・設備面の改善・充実を図る。

2 研究に関する目標を達成するための措置

名古屋大学は、「世界最高水準の学術研究を推進し、その成果を社会に還元するとともに、国際的研究拠点としての役割を果たす」ことを研究の中期目標としている。中期目標を達成

「グローバルプログラム」拠点等に重点的支援を行う。

<外部研究資金の確保>

- K48 科学研究費補助金やその他の競争的研究資金への応募件数を増加させる。
- K49 企業等との共同研究を促進し、企業等からの研究資金の増加を図る。
- K50 外部研究資金確保のための情報提供・サービスの事務的支援体制を強化する。
国際産学連携拠点を活用したシーズ発表会等を開催する。

<知的財産の創出及び活用>

- K51 産学連携を促進し、知的財産の創出を図るとともに、知的財産部を充実し、知的財産の取得、管理及び活用を推進する。
- K52 中部TLO等と連携して知的財産の企業への移転及び技術指導を促進し、知的財産の社会還元を図る。
中部TLO等と連携して、知的財産の社会還元を図る。

3 その他の目標を達成するための措置

社会連携、国際交流、附属病院、附属学校及び学術情報基盤の中期目標を達成するために定めた中期計画に沿って、平成21年度のそれぞれの項目の年度計画を策定した。

(1) 社会との連携に関する目標を達成するための措置

名古屋大学は、「文化・政治・経済及び産業の諸分野で地域社会の抱える課題の発見と解決に貢献する」ことを社会連携の中期目標としている。

<地域文化の振興>

- K53 附属図書館、博物館等の学内施設の公開を進め、地域サービスを充実する。
- K54 地域文化の振興を図るための公開講座、講演会を増やす。
- K55 地方自治体と連携した文化事業を充実する。
附属図書館は、資料展示会、講演会を開催する。地域の大学図書館・公共図書館との連携・協力をさらに拡大する。また「図書館友の会」を支援して、「トークサロン・ふみよむゆふべ」を開催する。
博物館は、ノーベル賞に関連した常設展示を開始する。特別展、企画展、特別講演会やコンサートを継続する。

<産学官パートナーシップの推進>

- ・ K56 地域社会との連携により、地域の防災、都市計画、保健衛生、福祉・安全の向上に寄与する。
「中京圏地震防災ホームドクター計画」等の地域貢献特別支援事業に関連したプロジェクトを推進する。
- K57 学内研究者と産業界の情報交換と人 台 龍 刃 曼 藤 井 の 菊 銀 傀 画 ば 絢 別 伺 爆 6 「中京六」 耳

スーパーサイエンスハイスクール事業、スーパーサイエンスパートナーシップ事業、「あいち・知と技の探究教育推進事業」等を支援する。

博物館は、名古屋市科学館等の地域博物館との連携による「地球教室」をはじめ、次世代教育を継続し、名古屋大学市民連携講座「おもしろ博物学」を実施する。

(3) 附属病院に関する目標を達成するための措置

<地域疾病管理>

- ・ K95 **行政と連携し、地域医療計画の作成・推進に積極的に参画する。**
有識者会議の提言に基づいて、人材交流委員会を中心とし、医師不足地域への医師派遣を効率的に推進する。
- ・ K96 **総合的機能回復医療を含む高齢者医療等の地域医療ネットワークを構築し、高齢者医療、在宅看護等を中心とする地域の疾病管理システムを確立する。**
病診連携を推進するたむ v 僞1 # 市の疾簸 る 笏基鉞 医鋤熒中心と鞠先乎中心牌施肺

Г

< 自主財源の確保 >

- ・ K133 社会との連携を密にして寄附金の増加を図る。
- ・ K134 寄附者に対する受入手続きの簡素化に配慮した寄附受入システムを整備する。
創立70周年を節目として、「名古屋大学基金」に広く寄付を募る。
- ・ K135 大学の保有する施設・知的財産等を活用して自主財源の増加を図る。
大学の保有する施設等を活用して収入を確保する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

< 効果的なコスト管理と資金運用 >

- ・ K136 安全かつ収益性に配慮した資金運用を実現する仕組みを構築する。
平成21年度は年度計画なし。
- ・ K137 適正な評価指標に基づき効率的資金配分を実現する。
引き続き傾斜配分による効率的な資源配分を実施する。
- ・ K138 教育研究に必要な経費の充実に努めるとともに、エネルギー等の経費の効率化、省力化を進め、管理的経費の抑制を図る。
附属図書館および医学部動物実験施設のESCOサービスを開始する。
「ドキュメントに関する包括的サービス」に基づき、複写機等、入出力機器の最適配置を進めることなどにより関連経費を削減する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

< 全学的視点での施設マネジメント >

- ・ K139 既存の委員会、専門部会及び事務組織を見直し、全学的・専門的な組織に再編・整備し、効率的な施設管理を行う。
平成21年度は年度計画なし。
- ・ K140 基本方針を策定するため、土地及び施設の運用評価システムを確立し、利用状況に関するデータベースの充実を図る。
平成21年度は年度計画なし。
- ・ K141 すべてのキャンパスの土地・施設を有効活用する計画を策定し、推進する。
「キャンパスマスタープラン2009」を策定する。

< 施設の整備及び維持管理の財源確保 >

- ・ K142 施設の整備と維持管理のための多様な財源を確保し、必要な予算配分を行う。
- ・ K143 新しい財源確保の手法を導入し、施設整備を推進する。
施設整備費補助金、間接経費、寄附金等多様な財源による施設整備を推進する。
- ・ K144 維持管理を一元的・効率的に推進する。
全学施設の維持管理業務の一元化・効率化を順次進める。

自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

名古屋大学は、「大学運営の透明性を確保し、的確な自己点検・自己評価に基づく情報公開を積極的に行い、社会に対するアカウンタビリティを強化する」ことを自己点検・評価と情報提供の中期目標としている。中期目標を達成するために中期計画に沿って、平成21年度の自己点検・評価と情報提供に関する年度計画を策定した。

1 評価の充実に関する目標を達成するための措置

< 客観的な評価体制の確立 >

- ・ K145 目標・計画の立案とその成果に関する評価を行う全学体制の強化を図る。
- ・ K146 多面的な評価に対応するために、評価企画室を中核とした、全学マネジメント情報システムの整備・充実を図る。
- ・ K147 上記の全学体制及びシステムに基づいて、全学自己点検・評価の一層の充実を図る。
「中期目標・中期計画・評価に関するアンケート」等の結果を計画・評価業務の改善に活用する。
次期中期目標（原案）・中期計画を作成する。
- ・ K148 第三者評価機関による評価を大学運営の改善に活用する。
第一期中期目標期間における第三者評価結果を活用する。

課外活動施設等の整備を推進する。
南部食堂を改築する。
附属図書館内の「ラーニング・コモンズ」を完成させる。

- ・ K168 男女共同参画を促進するための環境整備を進める。
学内保育所「こすもす保育園」を増築する。

2 安全管理に関する目標を達成するための措置

<安全なキャンパスの整備・維持>

- ・ K169 耐震診断に基づく耐震補強を推進する。
工学部5号館、8号館、環境医学研究所本館等を耐震化する。
- ・ K170 防犯・警備体制及びセキュリティシステムの強化を図る。
防犯・警備体制を強化する。
- ・ K171 毒劇物、化学物質、核燃料物質、放射性物質等の管理体制を強化する。
毒劇物、化学物質等の安全管理を強化する。
- ・ K172 災害対策室の充実等、災害及び事故に対する防災体制・危機管理体制を整備する。
防災体制・危機管理担当管理職管理太 貴 柔一 铸機管理 珣 見 x 樊 元 翰 见 x 樊 元 翰 见
久 无 铸 讓 。 部 章 内 の 「 ラ こ す も す 保 評 黄 勿 忌 鑫 戩 庇 僉 “ 0 硝 躑 鑫 叢 埒 巫 〇 安 翰 见 才 丸

(別紙) 予算、収支計画及び資金計画

平成21年度 予算

	区 分	金 額
収入		88,858
運営費交付金		35,968
施設整備費補助金		5,766
船舶建造費補助金		0
施設整備資金貸付金償還時補助金		0

平成21年度収支計画

	区 分	(単位 百万円)
		金 額
費用の部		82,108
經常費用		82,108
業務費		69,248
教育研究経費		11,665
診療経費		8,004
受託研究経費等		8,766
役員人件費		170
教員人件費		23,889
職員人件費		16,754
一般管理費		2,472
財務費用		1)

※ 百万円

3. 資金計画

平成21年度 資金計画

(単位 百万円)

区 分	金 額
資金支出	104,540
業務活動による支出	70,599
投資活動による支出	11,584
財務活動による支出	6,625
翌年度への繰越金	15,732
資金収入	104,540
業務活動による収入	78,676
運営費交付金による収入	35,897
授業料、入学金及び検定料による収入	9,255
附属病院収入	20,163
受託研究等収入	8,766
補助金等収入	1,779
寄附金収入	2,554
その他の収入	262
投資活動による収入	5,960
施設費による収入	5,855
その他の収入	105
財務活動による収入	899
前年度よりの繰越金	19,005

別表（学部の学科、研究科の専攻等）

文学部	人文学科 520人
教育学部	人間発達科学科 280人
法学部	法律・政治学科 620人
経済学部	経済学科 経営学科 840人
情報文化学部	自然情報学科 社会システム情報学科 320人
理学部	数理学科 220人 物理学科 360人 化学科 200人 生命理学科 200人 地球惑星科学科 100人
医学部	医学科 598人 (うち医師養成に係る分野 598人) 保健学科 858人
工学部	化学・生物工学科 600人 物理工学科 760人 電気電子・情報工学科 680人 機械・航空工学科 640人 社会環境工学科 280人
農学部	生物環境科学科 140人 資源生物科学科 220人 応用生命科学科 320人

医学系研究科

細胞情報医学専攻 160人

(うち博士一貫課程 160人)

機能構築医学専攻 186人

(うち博士一貫課程 186人)

健康社会医学専攻 144人

(うち博士一貫課程 144人)

看護学専攻 54人

┌

└

国際開発研究科	国際協力専攻	77人	
	うち博士前期課程		44人
	博士後期課程		33人
	国際コミュニケーション専攻	70人	
	うち博士前期課程		40人
	博士後期課程		30人
多元数理科学研究科	多元数理科学専攻	184人	
	うち博士前期課程		94人
	博士後期課程		90人
国際言語文化研究科	日本語文化専攻	70人	
	うち博士前期課程		40人
	博士後期課程		30人
	国際多元文化専攻	98人	
	うち博士前期課程		56人
	博士後期課程		42人
環境学研究科	地球環境科学専攻	183人	
	うち博士前期課程		108人
	博士後期課程		75人
	都市環境学専攻	157人	
	うち博士前期課程		94人
	博士後期課程		63人
	社会環境学専攻	126人	
	うち博士前期課程		72人
	博士後期課程		54人
情報科学研究科	計算機数理科学専攻	63人	
	うち博士前期課程		40人
	博士後期課程		23人
	情報工農 於筑鼠 舟 後期課軌		40人
	博士後期課程	23人	30人

